

第八十二回帝國議會
衆議院

市制中改正法律案外四件委員會會議錄(速記)第十五回

昭和十八年三月三日(水曜日)午前十時四十分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 古屋 慶隆君

理事安倍 寛君 理事伊藤 五郎君

理事佐藤 芳男君 理事國師 兼貳君

小野寺有一君 大川 光三君

大倉 三郎君 岡本傳之助君

河盛安之介君 柏原 幸一君

唐橋 重政君 小柳 牧衛君

土屋 寛君 中越 義幸君

西村 茂生君 野本吉兵衛君

原口 純允君 二田 是儀君

別所喜一郎君 松延彌三郎君

森 肇君 森谷 新一君

由谷 義治君 吉田貞次郎君

吉川 亮夫君

出席政府委員左ノ如シ

内務次官 山崎 巖君

内務省管理局長 竹内 徳治君

内務書記官 小林 千秋君

朝鮮總督府政務總監 田中 武雄君

朝鮮總督府財務局長 水田 直昌君

樺太廳長官 小河 正儀君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

日滿地方稅徵收事務共助法案(政府提出、貴族院送付)

貴族院送付)

明治四十年法律第二十五號廢止法律案(樺太ニ施行スヘキ法令ニ關スル件)(政府提出、貴族院送付)

大正九年法律第五十三號中改正法律案(關稅法關稅定率法及保稅倉庫法等ノ朝鮮ニ於ケル特例ニ關スル件)(政府提出、貴族院送付)

○古屋委員長 是ヨリ開會致シマス、本委員會ニ付託セラレマシタ日滿地方稅徵收事務共助法案、明治四十年法律第二十五號廢止法律案(樺太ニ施行スヘキ法令ニ關スル件)、大正九年法律第五十三號中改正法律案(關稅法關稅定率法及保稅倉庫法等ノ朝鮮ニ於ケル特例ニ關スル件)此ノ三件ガマダ當委員會ニ付託セラレテ審議未了ニナツテ居リマス

カラ、本日ハ此ノ三件ノ審議ヲ始メタイト思ヒマス、内務大臣ガ御出席ニナル所デスケレドモ、貴族院ノ方ノ關係デ出ルコトガ出來ササウデアリマスカラ、山崎次官カラ御説明ヲ願ヒマス——山崎次官

○山崎政府委員 本委員會ニ付託セラレマシタ日滿地方稅徵收事務共助法案、明治四十年法律第二十五號廢止法律案及ビ大正九年法律第五十三號中改正法律案ニ付キマシテ、其ノ概要ヲ御説明申上ゲタイト存ジマス、先ヅ日滿地方稅徵收事務共助法案ニ付テ申上ゲマス

近時滿洲國ノ發展ニ伴ヒマシテ、日滿間ノ交通ハ漸次繁劇ヲ加ヘツツアルノデアリマス、隨テ地方稅納稅義務者ノ移動モ亦累年多キヲ加ヘツツアリマスノデ、是ガ爲メ地方團體ハ相互ニ地方稅ノ徵收ニ付キ相當苦慮シツツアル狀況デアリマス、仍テ曩ニ實施セラレマシタ日滿國稅徵收事務共助法案ノ例ニ倣ヒマシテ、地方稅ノ徵收ニ付テモ相互囑託ヲナシ得ル途ヲ拓キ、地方稅ノ徵收上遺憾ナキヲ期シタイト存ジマシテ本法案ヲ提出致シタ次第デアリマス、以下其ノ方法ニ付キマシテ簡單ニ御説明申上ゲマス

第一ハ滿洲國側ヘ地方稅ノ徵收ヲ、囑託スル場合デゴザイマス、是ハ地方稅納稅義務者ガ滿洲國ニ居住シ、又ハ納稅義務者ノ財產ガ滿洲國ニ在リマス場合、帝國ノ當該官吏又ハ吏員、即チ北海道廳長官、府縣知事、又ハ市町村長ハ、地方稅並ニ之ニ附隨スル督促手数料、延滞金、滯納金處分費ニ付キマシテ、本人又ハ財產ノ所在地ヲ管轄スル滿洲國ノ當該官吏、即チ市長、縣長、又ハ旗長ニ對シマシテ其ノ徵收ヲ囑託シ得ルコトト致シタノデアリマス

事情ニアリマスノデ、命令ヲ以テ滿洲國ノ當該官吏、即チ市長、縣長、又ハ旗長ヲ對象トシテ地方稅ノ徵收ヲ囑託スルコトト致シタイト存ズル次第デアリマス

第二ハ、滿洲國側カラ地方稅ノ徵收ノ囑託ヲ受ケル場合デゴザイマス、滿洲國ノ地方稅ニハ、省地方費稅、市稅、縣稅、旗稅、街稅及ビ村稅ガゴザイマスガ、其ノ納稅義務者又ハ財產ガ我が國ニ在リマス場合、滿洲國ノ當該官吏、即チ市長、縣長又ハ旗長等カラ我が國ノ當該官吏即チ市町村長ニ對シテ徵收ノ囑託ガアリマシタ時ハ、市町村長ハソレト、當該市町村稅徵收ノ例ニ依リマシテ徵收ヲナシ送金スルコトト致シタノデゴザイマス、而シテ、此ノ場合ニ於ケル徵收ノ順位、訴願、訴訟等ニ付テ規定致シマスト共ニ、徵收金ノ徵收及ビ送付ニ要シマス費用ハ之ヲ所屬市町村ノ負擔トスル旨ヲ規定致シタ次第デアリマス

次ニ、明治四十年法律第二十五號廢止法律案ニ付テ御説明申上ゲタイト存ジマス、内外地行政ノ一元化ヲ圖ル爲メ樺太ヲ本年四月以降内地行政ニ編入スルコトトナリマス處、從來樺太ハ、明治四十年法律第二十五號、樺太ニ施行スベキ法令ニ關スル法律ニ依リマシテ、内地ト法域ヲ異ニシ、内地ニ行ハルル法律ハ原則トシテ樺太ニハ

付託議案(審査終了ノモノヲ除ク)
日滿地方稅徵收事務共助法案(政府提出、貴族院送付)(第五九號)
明治四十年法律第二十五號廢止法律案(樺太ニ施行スヘキ法令ニ關スル件)(政府提出、貴族院送付)(第六〇號)
大正九年法律第五十三號中改正法律案(關稅法關稅定率法及保稅倉庫法等ノ朝鮮ニ於ケル特例ニ關スル件)(政府提出、貴族院送付)(第六一號)

行ハレナイコトトナツテ居リマスノデ、今
同此ノ法律ヲ廢止致シマシテ、將來公布セ
ラレマス法律ハ原則トシテ當然樺太ニモ施
行セラルコトト致シ、法律ノ施行關係ヲ
内地ト同様ナラシメントスルノガ本法律案
ノ趣旨デアリマス、而シテ既存ノ法律ニ付
キマシテハ、現在樺太ニ施行サレテ居リマ
セヌモノガ相當數ニ上ツテ居リマシ、又施
行サレテ居ルモノニ致シマシテモ、明治四十
年法律第二十五號ニ基ク勅令ニ依リマシテ、
土人ニ關スルコト、行政官廳又ハ公署ノ職
權ニ關スルコト等ニ關シ特例ヲ設ケテ居ル
モノガ多數ゴザイマスノデ、是等ニ付キマ
シテ今直チニ内地ト法域ヲ同ジク致シマス
ニハ、樺太施行ニ支障ナカラシメル爲メ是
等法律ノ全般ニ互リ改正ノ手續ヲ執ラネバ
ナラスコトナリ、又他面尙ホ相當ノ調査
準備ヲ整ヘル必要モアリマスノデ、本法律
中ニ附則ヲ設ケマシテ、既ニ公布セラレマシタ
法律及ビ是等ノ改正法律ノ樺太ニ於ケル施
行關係ニ付キマシテハ、從來通り明治四十
年法律第二十五號ノ例ニ依ルコトト致シタ
次第デアリマス、尤モ樺太ニ施行致シテ居
リマス法律ノ特例ノ撤廢或ハ未施行法律
ノ施行ニ付キマシテハ、準備整ヒ次第可及
的速カニ實施致シマシテ、樺太ノ内地行政
編入ノ實ヲ擧ゲタイト存ズル次第ゴザイ
マス

ビ義州ノ兩發電施設ハ、國境河川ニ跨リマ
ス關係上、日滿兩國領域間ニ各種工用品ノ
頻繁ナル輸出入ヲ隨伴致シマス爲メ、之ニ對
シマシテ關稅法所定ノ手續ヲ執ラシメマス
時ハ、工事ノ進捗上相當大ナル支障ヲ來ス
ノデアリマシテ、既ニ略、竣功致シマシタ水
豐發電所ノ建設ニ際シマシテモ、是ガ爲メ
工事遂行上種々不利不便ヲ經驗致シタ次第
デアリマス、殊ニ今回建設セント致シマス
ル雲峯發電工事場ノ如キハ、朝鮮側ニ突出
シタ滿洲國領土ヲ中心トシテ施行セラルル
ノデアリマシテ、斯カル特異ナル地形ニ於
テ工事ヲ施工スルニ際シマシテハ、其ノ建
設用各種材料、機械、器具、工事從業者ノ
生活物資等ガ、鮮滿國境ヲ越エ、頗ル頻繁
ニ運搬セラルベキコトハ容易ニ想察シ得ル
ノデアリマス、隨ヒマシテ今回國境河川ニ
跨ル設備ノ建設工事ニ必要ナル是等物品ノ
輸出入ニ付テハ、關稅法ノ適用ヲ免除スル
ヲ適當ト認メ、第六條ニ第四項ヲ新タニ追
加致シマスト共ニ、現行第六條本文ノ免除
區域ニハ、水口鎮ヨリ約二里下流ノ義州發
電所ノ位置ガ含マレマスノデ、免除區域
ヲ鴨綠江口ニ近イ新義州停車場マデ擴張致
サントスル次第デアリマス、而シテ關稅法
ノ適用ヲ免除サレマス物品ニ付キマシテハ、
國境河川ニ跨ル橋梁、水力發電設備其ノ他
ノ設備ノ建設工事ニ必要ナル物品ニ付キ、
朝鮮總督ヲシテ現地ノ實情ニ即シ適宜之ヲ
定メシメルコトト致シテ居ルノデアリマス、
以上三法律案ニ付テ簡單ニ御説明申上ダタ
次第デアリマスガ、尙ホ詳細ハ御質問ニ依
リマシテ御答ヘ致シタイト存ジマス、何卒
御審議ノ程ヲ御願ヒ致ス次第デアリマス

ヲ願ヒマス——吉田君
○吉田(眞)委員 私ハ樺太ノ問題ニ付テニ
三御伺ヒテ致シタイト思フノデアリマス、
只今御説明ニナリマシタ樺太ノ特別ノ法律
ヲ廢止スルト云フ此ノ法律デアリマスガ、
之ニハ附則ニ於テ從來ノ法律ハ「仍從前ノ例
ニ依ル」ト云フコトニナツテ居リマス、全般
的ニ斯ウ云フ風ニナレバ、此ノ法律ヲ拵ヘ
ルコトガドウカト思フノデアリマス、今御
説明ニモアリマシタケレドモ、併シ此ノ際
ハ行政刷新ノ意味カラ申シマシテモ、亦樺
太ニ住ンデ居ル人間ニ、今マデノヤウナ差
別的或ハ植民地的ノヤウナ觀念ヲ一掃サセ
ル意味カラ申シマシテモ、必要ノアリマス
ル一部分ノ法律ヲ行フコトニシテ置クト云フ
コトハ已ムヲ得デアラウト思ヒマスガ、
全般ノモノヲ「從前ノ例ニ依ル」ト云フヤウ
ニシテヤルト云フノハ、何モ此ノ法律ノ效果
ヲ期待スルコトガ出來ヌノデハナイカ、此
ノ際ニ寧ロ斷然廢止シテ、内地ト同ジヤウ
ニシテシマフ、斯ウ云フヤウニナサツタ方
ガ宜イト思フノデアリマスガ、此ノ點ニ付
テ御伺ヒ致シマス

○竹内(德)政府委員 只今ノ御尋ネ洵ニ御
尤モデアリマス、樺太内地編入ト云フ方針
ハ閣議ニ於テ昨年ノ九月決定致シタ譯デア
リマス、之ヲ實施シテ參リマス場合ニ如何
ナル順序、段階ヲ履ムベキカト云フコトニ
付キマシテ、種々政府部内ニ於テ考究致シ
タノデアリマス、其ノ途上ニ於キマシテハ、
樺太長官ノ意見或ハ樺太四十萬島民ノ御意
向等モ察シマシテ、之ヲ實施スルニ當ツテ
樺太ノ諸般ノ制度、經濟事情等ニ「ショック」
ヲ與ヘナイヤウニト云フコトヲ色々考ヘタ
ヤウナ次第デアリマス、内地編入措置ト致
シマシテハ、今御審議ヲ願ツテ居リマスル
此ノ法律廢止ノ外ニ、樺太廳官制ノ改正其
ノ他色々方法ヲ考ヘテ居ル次第ゴザイ
マスガ、今御質問ノアリマシタ此ノ法律ダ
ケニ付テ申上ダマス、實ハ樺太ハ同ジ外
地トハ申シマシテモ、在來カラ朝鮮、臺灣
トハ餘程事情ヲ異ニシテ居リマシテ、法律ニ
關シマシテモ朝鮮、臺灣ニ於テハ御承知ノ如
ク制令、律令ト云フヤウナモノガゴザイマ
シテ、朝鮮ノ如キハ内地ノ法律ガ其ノ儘施行
サレテ居ルモノハ極ク少數ゴザイマス、
之ニ反シマシテ樺太ニ對シマシテハ今マデ
モ原則トシテ内地ノ法律ヲ施行シテ參ル、
斯ウ云フ建前ヲ執ツテ居リマシテ、現在マ
デニ施行サレテ居リマス法律モ二百數十
件ノ多キニ達シテ居リマス、此ノ調査ヲ致
シマス際ニ、實ハ一體現行法ノ數ハドノ位
アルカト云フコトモ研究致シタノデゴザイ
マスガ、大體申上ダマス施行サレテ居リ
マス法律ガ二百三十餘件、施行サレナ
イモノガ約五百件程ゴザイマス、併シ此ノ
五百件ノ大部分ハ、實ハ樺太ニ施行ノ必要
ノナイヤウナ法律ガ多イ、例ヘバ是ハ極端
ナ例デアリマスルガ、北支那開發株式會社
法ト云フモノツノ法律ゴザイマス、是
ハ必要カラ申シマスレバ樺太ニ施行スルコ
トノ必要ノナイモノデアリマス、サウ云フ
ヤウナ關係デ施行サレテ居ラヌ法律ガ、今
施行セラレテ居リマセヌ法律ノ五百件ノ大
部分ヲ占メテ居ル譯デアリマシテ、實際施
行シテモ宜イヤウナ法律ハ百數十件ト云フ
ヤウナコトヲ一應調査シタ譯デアリマス、併
シ之ヲ今直グ施行スルトドウ云フ影響ガア
ルカト云フコトヲ色々考ヘテ見マスルト、是
ガ爲ニハ色々特例ヲ考ヘテ參ラナケレバナ

ラスト云フコトト、其ノ外ニ樺太ニハ御承知ノヤウニ内地ノヤウニ府縣ニ該當スル地方公共團體ト云フモノガゴザイマセス、内地ニ施行サレテ居リマス法律ノ中ニハ、此ノ法律ニ伴フ經費ノ負擔等ヲ地方團體ニ背負ハシテ居ルヤウナモノガ相當多イノデアリマス、例ヘバ道路法ニ付テ申シマス、其ノ經費ハ府縣ガ負擔スルト云フコトニナツテ居リマスガ、樺太ニ於テハ是ハ國費ヲ以テヤツテ居ル、斯ウ云フヤウニ事情ガ異ツテ居リマスノデ、色々研究致シマシタ結果、少クトモ今後出マス法律ハ是ハ總テ樺太ニ施行シテ參リマスガ、若シクハ法律自身ノ中ニ必要ナラバ特例ヲ設ケ得ル條項ヲ決メテ行ク、今マデノモノハ篤ト樺太ノ實情ヲ見マシテ、出來ルダケ急速ニヤルト云フコトハ考ヘテ居リマスガ、直チニ之ヲヤルト云フコトハ適當デナイ、例ヘテ申シマス、税法デアリマスガ、樺太ニ於キマシテハ、在來稅ハ内地ノ稅法其ノ儘ヲ施行シテ居ルモノハ極ク少部分デアリマシテ、大部分ハ樺太在來ノ事情ニ依リマシテ、大體内地ニ倣ツテ居リマスガ、特別ノ稅ヲ施行シテ居リマス、サウシテ免稅點等ニ付テモ違ヒマスト、之ヲ一舉ニ内地ノ稅率ニ致シマス、樺太住民ノ負擔ニ非常ニ大キナ變更ヲ加ヘルト云フ關係ガゴザイマスノデ、是等ニ付テモ十分事情ヲ研究シテ、出來ルダケ速カニ改正シテ内地ノ稅制ニ統一一致シマスガ、其ノ間ニ若干期間ヲ置クコトガ適當デアアル、斯様ニ考ヘマシテ此ノ法律ニゴザイマスヤウニ、一應在來ノ法律ハ直グニ樺太ニ施行スルト云フコトヲ避ケマシテ、篤ト事情ヲ研究シマシタ上、必要ナルモノニ付テ出來ルダケ速カニ今後ヤツテ參ル、其ノ爲

ニ此ノ法律ニ附則ヲ設ケタヤウナ次第デアリマス

○吉田(眞)委員 樺太ノ特別ノ事情、詰リアソコニ公共團體ガナイト云フヤウナ點、ソレカラ稅法ノ相違、サウ云フコトハ無論是ハ急激ナ變化ハ避ケナケレバナラスト思フノデアリマスガ、唯此ノ法律ハ全般的ナモノヲ「仍從前ノ例ニ依ル」ト斯ウアリマスノデ、此ノ機會ニ斷然廢止シテ、特例ヲ設ケテ出來ルモノナラバヤツテ戴キタイト云フ趣旨デ申上ダタノデアリマスガ、御説明ニ依レバ成ベク早イ機會ニ施行スルト云フコトガ明カニナリマシタノデ、此ノ點ハ此ノ程度デ質問ハ止メマシテ其ノ次ヲ御伺ヒ致シマス

樺太ニ町村制ヲ施行セラレコトニナリマスルト、是ハ必要ナル特例ヲ設ケタルト云フコトハ御示シニナツテ居リマスルガ、其ノ特例ト言ヒマスルノハドウ云フ特例デアリマスルカ、現在オヤリニナツテ居ル内地ノ町村制ト變ツテ居ル内容ハドンナ關係ニナツテ居リマスルカ、其ノ點ヲ御伺ヒ致シタイト思ヒマス、尙又樺太ノ町村長ト云フモノハ皆官選サレテ居ルノデアリマスルガ、内地ノ町村制ヲ施行サレルト云フコトニナリマス、町村長ノ身分ヲドウ云フ風ニ御取扱ヒニナリマスガ、其ノ措置ヲ伺ヒタイ、是ハ北海道モ同ジデアリマシテ、北海道ノ二級町村ハ全部官選ノ村長デアリマスガ、是等モ町村制ヲ施行サレルトドウ云フ措置ヲ御執リニナリマスガ、併セテ御聽キ致シタイト思ヒマス

○竹内(德)政府委員 御承知ノ如ク現在樺太ノ市制、町村制ハ内地ト違ヒマシテ、樺太市制、樺太町村制ト云フモノガゴザイマスガ、今般内地ノ市制、町村制改正ニ伴

ヒマシテ、其ノ最後ノ條文トシテ北海道及樺太ニ於ケル町村ニ付テハ本法ニ拘ラズ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケタルコトヲ得ト云フ規定ガ先般本委員會ニ於テ御審議願ヒマシタ町村制ノ中ニゴザイマシテ、今度改正ニナリマス町村制ヲ樺太ニモ其ノ儘施行シテ參リ、今ゴザイマス樺太町村制ヲ廢止スルコトニナリマス、今讀上ゲマシタ如ク北海道ト同ジク樺太ニ付テハ勅令デ町村制ニ付テ特例ヲ設ケタルコトヲ得トナツテ居リマシテ、今御示シノゴザイマシタ一級町村、二級町村ト云フ制度ハ今後モ當分ノ間續ケテ參ルト云フ必要ガゴザイマスルノデ、之ニ關スル規定ヲ此ノ勅令ニ依ツテ決メテ參ル積リデゴザイマス、勅令ノ内容ハマダ具體的ニ確定致シテ居リマセスガ、大體當分ノ間ハ樺太ニ於キマシテ現在ノ二級町村——町ハ二級ハナイト存ジマスガ、村ニ付テハゴザイマス、官選ノ村長ヲ置キマスル二級村ノ制度ハ暫クノ間ハ續ケテ參ル必要ガアラウカト斯様ニ考ヘテ居リマス

○吉田(眞)委員 樺太ハ能ク分リマシタガ、北海道ノ二級町村ハドウナサルノデアリマスガ、其ノ點ヲ一ツ御伺ヒシタイト思ヒマス

○竹内(德)政府委員 北海道モ同様ニ致ス積リデアリマス

○吉田(眞)委員 其ノ次ニ御伺ヒシタイトコトハ、樺太ニ衆議院議員ノ選舉ヲ何時實施セラレマスルカ、若シ實施スルト致シマシタラ選舉區トカ定員トカ云フコトニ付テモ御考ヘテ持ツテ居ラレマスガ、其ノ點伺ヒタイ

○竹内(德)政府委員 衆議院議員選舉法ノ樺太施行ニ關シマシテハ目下鋭意研究中デアリマシテ、成ベク速カニ適當ナ機會ニ樺

太ニ施行致シタイ所存デゴザイマスガ、未ダ定員其ノ他ノ點ニ付テ具體的ニ申上ゲルマデニ至ツテ居リマセス

○吉田(眞)委員 次ニ御伺ヒシタイトハ樺太ノ開發會社ノコトデゴザイマス、此ノ會社ハ只今ノヤカマシク言ハレテ居リマス國策會社ノ出來ル前ニ、國策會社ト同様ニ使命ヲ持ツテ生レタモノデアルト考ヘテ居リマス、債券ヲ發行スルトカ色々ノ特權ヲ持ツテ樺太ノ開發ニ當ツテ居ル會社デゴザイマスガ、現在吾々ノ聞イテ居ル所デハ、其ノ事業成績ハ餘リ振ツテ居リマセス、殊ニ開發會社ガ自身デ樺太開發ノ爲ニ獨創的ニ働キ掛ケテ仕事ヲスルト云フヤウナコトデナクシテ、概ネ官廳ノ指圖ヤ或ハ又勸誘ヲ受ケテ仕事ヲシテ居ル狀態ト聞イテ居ルノデアリマスガ、ソシナコトデハ何時マデ經ツテモ業績ハ中々舉ラスト思フノデアリマシテ、眞ニ樺太ノ開發ノ使命ヲ全ウセシメル爲ニ、ドウ云フ風ニヤツタラ宜イカト云フ振興策ニ付テ御考ヘガアツタラ伺ヒタイト思ヒマス、竝ニ樺太開發會社ノ事業ノ現況ニ付キマシテ大要ヲ御示シテ願ヒタイ

○小河政府委員 只今ノ御尋ネニ對シテ御答ヘ申上ゲマス、御承知ノヤウニ樺太開發株式會社ハ昭和十五年ノ暮カラ十六年ノ初メニ掛ケテノ議會ニ於キマシテ御協賛ヲ經マシテ、昭和十六年ノ七月ニ設立ヲ見タ次第デゴザイマス、此ノ會社ハ只今申サレマシタヤウニ、樺太ノ綜合的開發ヲ致シマスベキ國策會社トシテ生レ出マシテ政府ガ半額ヲ出資致シテ居リマス、又其ノ役員ノ任命竝ニ起債ノ點ニ於キマシテ商法ト異ル特權ヲ與ヘラレテ居リマシテ、全般的ニ樺太ノ開發ニ寄與スベキ使命ヲ持ツテ居ルノデ

アリマス、當會社ノ當初ノ計畫ト致シマシテハ石炭採掘事業ニ於キマシテハ、政府出資ノ坑區ニ於テ年額百萬「トン」ヲ目標トシテ出炭致スベキ計畫ノ下ニ着手ヲ致シマシタ、木材ニ於キマシテ年額二百五十萬石ノ伐採造材ヲ致シマシテ年額二百五十萬石ヲ致シマシタ、其ノ外造林事業及ビ農地開發ノ事業ヲ致スベキ使命ヲ生レ出タノデゴザイマスガ、御承知ノ如ク當會社設立後國內ノ事情ガ非常ニ變化ヲ來タシマシテ、樺太ニ於ケル石炭ハ内地ニ於テ其ノ需要ガ非常ニ熾烈デハアリマスルガ、輸送力其ノ他ノ制約ノ下ニ、既存ノ會社ニ於キマシテモ其ノ出炭ヲ制限シナケレバナラヌト云フヤウナ事情ニ立至リマシテ、新タニ設立ヲ見タ會社ニ對シマスル是等ノ開發事業ハ、資材勞務其ノ他ノ點ニ於テ非常ニ窮屈ナ狀態ニ相成リマシテ、豫定ノ如キ計畫ヲ進メルコトガ出來ナイ實情ニ相成リマシタ、今日ニ於キマシテハ、大體年額二十萬「トン」ノ出炭ノ計畫ノ下ニ着手準備ヲ進メテ居リマシテ、昭和十八年度ニ於キマシテハ大體十萬「トン」ノ出炭ヲ見ル豫定デゴザイマス、尙ホ木材ニ於キマシテモ只今申上ゲマシタヤウナ石炭ノ事情ニ依リマシテ、各炭坑ノ坑木需要ガ非常ニ減少致シマシテ、當初ノ伐木計畫ヲ其ノ儘實行スルコトガ出來ナイ狀態ニナリマシテ、昭和十七年度ニ於キマシテハ約七十五萬石ノ伐採ヲ致シタヤウナ次第デアリマシテ、昭和十八年度ニ於キマシテモ略、同様程度ノ伐木ヲ致ス計畫デアリマス、斯様ナル事情ノ變化ニ依リマシテ、會社ノ運營ガ餘程困難ニ立至ツテ居リマスルケレドモ、此ノ事情ハ一時的ノ事情デゴザイマシテ、今後は等ノ事情ノ一掃セラレマ

シタ曉ニ於キマシテハ、當初ノ計畫ニ從フ事業計畫ハ、遂行スルコトガ出來ルト信ジテ居リマス、其ノ外造林事業及ビ農地開發ノ事業モ、着々實行致シテ居リマスガ、是トテ當初ノ豫定ノ如キ資材ノ入手ガ困難デアリマスノデ、當初ノ豫定通りノ事業ノ遂行ハ致シテ居リマセヌガ、順次是等モ遂行致シテ參ツテ居ルヤウナ次第デゴザイマス尙ホ是等ノ會社ノ實情ト致シマシテ、他ニ樺太ノ開發ニ資スベキ事業ニ關シマシテ、投資ノ方法ニ依リマシテ之ニ寄與スルト云フ建前ノ下ニ、今マデ既ニ主務官廳ノ御認可ヲ得テ投資ヲ致シマシタ事業ハ、樺太水產株式會社、是ハ主トシテ冷凍加工業ヲ致シマスル樺太全島ノ單一統制會社デゴザイマスガ、之ニ對スル出資百萬圓、ソレカラ樺太漁業株式會社、是ハ樺太ノ定置漁業ヲ統一一致シマシタ統制會社デゴザイマスガ、之ニ對スル百萬圓ノ出資、ソレカラ近ク設立ヲ見マス樺太ノ製材事業ヲ統一一致シマシタ樺太製材會社ニ對シマシテ、二百五十萬圓ノ出資、ソレカラ近ク是モ設立ヲ見マスル樺太ノ配電事業ノ統一會社、之ニ對シマシテ約總資本額ノ一割ノ投資ヲ致シマス、尙ホ樺太ノ鹽鹵其ノ他ノ海獸捕獲及ビ處理ノ會社ニ對シマスル出資等、各種ノ事業ニ對シマシテ出資ヲ致スコトニ依リマシテ、樺太ノ開發ニ寄與致シタイト云フ考ヘデアリマス、唯御承知ノ如ク當會社ハ創立勿々デゴザイマシテ、未ダ活潑ニ活動ヲ致シマスルマデニナツテ居リマセヌ、或ハ會社ノ準備又ハ人的陣容ニ於キマシテ、十分活動シテ居ラナイト云フ點ハ、甚ダ遺憾デゴザイマスガ、年ヲ追フニ從ヒマシテ會社ノ陣容ノ整備ヲ致シマスニ從ヒマシテ、順次活潑

ニ樺太開發ノ爲ニ寄與致スコトデアルト信ジテ居リマス尙ホ斯様ナ事情ノ下ニ於キマシテ當會社ノ事業資金等ノ窮迫ノ爲ニ、之ヲ打開スベク先般本議會ノ御協賛ヲ經マシテ、昨日貴族院ニ於キマシテモ御可決ヲ見マシタ所ノ、豫算外國庫ノ負擔ナルベキ契約ヲナスヲ要スル件ト云フモノデ、二十萬圓ヲ限リマシテ政府ガ元利保證ヲ致シマシテ社債ヲ發行致シマシテ、サウシテ事業資金ノ運用ニ充テシムルト云フコトニ致シマシテ、本會社ノ將來ノ活動ヲ期待致シテ居ルヤウナ次第デゴザイマス

○吉田 委員 只今ノ御答辯デ、開發會社ノ現狀ハ大體承知致シタノデアリマスガ、尙ホ御伺ヒ致シタイノハ、樺太開發會社ガヤリツツアル仕事、又はカラヤラウトスル仕事、ソレ等ノコトハ何レモ樺太デ今マデ他ノ會社或ハ他ノ事業家ガヤツテ居リマシタコトデ、一口ニ申シマス、開發會社デナケレバヤレナイト云フヤウナ事業デハナイヤウニ思フノデアリマス、ソレヲ樺太開發會社ガ今マデヤツテ居ルコト以外ニ、樺太ヲ開發スル爲ニ、私ノ申シマスル樺太總合開發ノ爲ニ、獨創的ナ見地カラ、モツト大キク仕事ヲヤラレト云フ御考ヘデ、資本金ガナケレバ無論資本金ヲ増資シテヤルトカ、何トカシテ、何カ根本的ニモウ少シ大仕掛ナ御考ヘデ、樺太總合開發ニ當ルト云フヤウナコトニナサラナケレバ、中々思フヤウニ行カヌ、此ノ色々ナ制約サレタ事情ガ緩和サレマシテモ、都合好ク行カヌカト考ヘルノデアリマス、況ヤハ是ハ設立勿々デゴザイマスケレドモ、此ノ際ニ御答辯ニナリマシタ通りニ、日本ノ事情ガ非常ニ違ツ

テ參ツタノデアリマスカラ、此ノ日本ノ大キナ事情ノ變化ニ伴ヒマシテ、此ノ會社モモツトウント事業ヲ大キクシテ、樺太竝ニ北洋ニ於ケル大キナ資源ノ開發ト云フコトニ付テ、オヤリニナルト云フ御考ヘハアリマセヌカ、其ノ點ヲ尙ホ御伺ヒシタイト思ヒマス

○小河政府委員 御尤モナ御質問デゴザイマシテ、開發會社ト致シマシテハ樺太開發ノ爲ニ、前人未到ノ地域ニ大開發ノ足ヲ踏入レナケレバ相成ラスコトデアリマシテ、其ノ點ニ付キマシテモ種々會社當局ニ於テ考究ハ致シテ居リマスルガ、マダ此處デ申上ゲルマデニ具體的ニ進ンデ居リマセヌノデ、只今ハ申上ゲマセヌデシタガ、只今計畫致シマシテ調査ヲ致シテ居リマス仕事ト致シマシテハ、「ツンドラ」ヲ加工致シマシテ、之ヲ家畜ノ飼料ニ致ス事業デゴザイマス、是ハ御承知ノヤウニ國內ノ事情ガ斯様ニ相成リマシテ、而モ食糧事情等ノ爲ニ米糠、穀等ノ供給モ非常ニ少ク相成ツテ居リマス、之ヲ他ノモノデ補フト云フ意味ヲ以テマシテ、「ツンドラ」ヲ加工致シマシテ此ノ飼料ニ充テヨウト云フコトデ、折角只今事業計畫ニ付テ調査ヲ致シテ居リマス、是ハ早く參リマスナラバ、本年ノ雪解期カラ一部ノ設立ノ事業ニ取掛ルカ知ラント考ヘテ居リマス、尙ホ其ノ他樺太ニ於ケル各種ノ事業ノ基本ト相成リマス所ノ「セメント」製造工業、是ハ樺太ノ國境附近ノ北方ニハ、石灰石ノ非常ニ多量ナ埋藏ガアリマス、只今交通不便デアリマスノト、御承知ノヤウニ樺太ハ石炭ガ非常ニアリ餘ツテ居リマシタガ、其ノ地域ハ西海岸ノ北部ニ多イノデゴザイマス、之ヲ石灰石ノアリマス地區ト結

付ケルト云フコトハ、中々難カシイノデア
リマシテ、交通機關ノ整備其ノ他ニ俟タナ
ケレバナラヌノデアリマス、此ノ方面ニモ
マダ具體的ニハ相成ツテ居リマセヌガ、將
來交通機關ノ整備ヲ要スル大體ノ方針ニ相
成ツテ居リマス、斯様ナ交通機關ノ整備ト
共ニ此ノ仕事ニ乗出シタイ、尙ホ其ノ石灰
ヲ利用致シマシテ、或ハ「カーバイド」ノ製
造工業、更ニ進シテ「ブタノール」其ノ他ノ
液體燃料工業ニマデ進ム調査モ致シツツア
リマス、更ニ現在デハ船腹ノ關係ヲ輸送ニ
制約サレテ居リマスノデ、石灰ノ増掘ヲ致
シ、之ヲ地元デ消費スルト云フコトノ爲ニ
自分デ生産致シマス石灰ヲ利用致シマシテ
之ニ依ツテ硫酸ノ製造工業其ノ他ノコトヲ
モ致シタイト考ヘテ、折角調査ハ致シテ居
リマスガ、今日マダ事業化シテ皆サシニ御
報告スルマデニ立至ツテ居リマセヌコト
ハ、甚ダ遺憾デゴザイマスガ、會社當局ト
致シマシテモ、其ノ方面ニ十分ナル努力ト
研究トヲ續ケテ行ツテ居ル次第デゴザイマ
ス

○吉田(眞)委員 モウ一ツ御伺ヒ致シタイ
コトハ、今色々御述ベニナリマシテ、御苦
心ハ能ク想像ガ付クノデアリマスガ、大體
私共考ヘマスノニハ樺太ノ人口ガ、今ノ人
口デハドウシテモ事業ガ起ラス、旨ク行カ
ス、サウ云フ風ニ考ヘルノデアリマスガ、
樺太ノ人口政策ヲドウ御考ヘニナツテ居リ
マスガ、又併セテ樺太ノ農業移民ヲドウ云
フ風ニ御考ヘニナツテ居リマセウカ、今日
北海道モ同ジデアリマスルガ、北海道、樺太
ト云フヤウナ地域ニ人口ヲ増殖スルコトハ
非常ナ困難ナコトデ、中々容易デハナイト
思フノデアリマスル、併シ大東亞地域ト云

フト、一口ニ何レモ南方ノヤウナ感ジラ
吾々持ツノデアリマスケレドモ、大東亞地
域ノ北方ノ據點デアリマス所ノ北海道、樺
太ト云フモノハ、此ノ際非常ニ重要デアリ
マシテ、人口政策ニシマシテモ、又人口ノ
内地移民ニシマシテモ、或ハ農業移民ニシ
マシテモ、北方ノ人口増加ト云フコトヲ閑
却スルコトハドウシテモ出來ヌト思フノデ
アリマス、此ノ困難ナル事情ノ下ニアリマ
ス樺太ノ人口増殖、之ニ依ツテ殖産興業ヲ
圖ルト云フヤウナコトニ付テノ御考ヘヲ伺
ヒタイト思フノデアリマス、殊ニ農業移民
ニ付キマシテハ、ドウ云フヤウナ御考ヘヲ
持ツテ居ラレマスガ、私共北海道ニ居ツテ
考ヘマスノニ、樺太ノ農業ト云フモノハ現在
ノ所ドウ云フ農業ヲ彼處ニ打建テルカト云
フヤウナ方針ガ、ドウモ確立サレテ居ラスヤ
ウニ思フノデアリマシテ、ソコヘ持ツテ行
ツテ農民ヲ植エルト云フコトハ中々容易デ
アリマセヌシ、又樺太ニシマシテモ農業ニ
適スル所モアラウト思フシ、又適シナイ所
モアラウト思ヒマスノデ、是等ノ地域ヲド
ウ云フ風ナコトデ農地トシテ開發利用スル
ト云フヤウニ御考ヘニナツテ居リマスガ、
此ノ點ヲ御伺ヒシタイト思ヒマス

○小河政府委員 御答ヘ申上ゲマス、樺太
ノ開發ニ樺太ノ人口ノ増加ガ必要デアルト
云フコトハ全ク御意見ノ通りデゴザイマ
ス、今日ニ於キマシテハ樺太ノ人口ハ正確
ナ數字ハ分リマセヌガ、四十万カラ四五
万ノ間、斯ウ云フ大體ノ見透シデゴザイマ
ス、一昨年ノ國勢調査ノ際ノ現在人口ガ約
四十三万人デアリマスカラ、大體其ノ程度
ノモノデアラウト思ヒマス、併シナガラ今
日ノ樺太ノ鑛業、即チ石灰採掘ノ事業並ニ

漁業及ビ森林事業等ニ要シマスル勞力ハ、島
内ニ於テ到底之ヲ自給スルコトガ出來マセ
ヌノデ、一部ハ遠ク朝鮮カラ其ノ供給ヲ仰
イデ居ルヤウナ次第デゴザイマス、又一部
ハ季節勞務者ト致シマシテ、東北各府縣カ
ラ一時的ノ出稼ヲ仰イデ、漸ク勞務ヲ充足
致シテ居ルヤウナ次第デゴザイマスルガ、
今後トモドウシテモ地元勞力ヲ以テ之ヲ
補充スルコト云フコトハ、洵ニ緊要ニ相成ツ
テ參リマシタ、國內ノ事情カラ申シマシテ
モ、各地トモ勞務ノ不足ヲ懸ヘテ居リマス
ノデ、出來得ル限り地元勞務ノ充足ヲ圖ル
ト云フコトガ必要デゴザイマスルガ、御承
知ノ如ク樺太ニ於キマシテハ農家戸數一万
ニ充タナイト云フ現状デゴザイマシテ、此
ノ人口約五万、是デハ到底此ノ充足ヲスル
ニハ至難デゴザイマシテ、今後農業移民ヲ益
多ク入レルト云フコトハ、最モ痛感致シテ
居ル必要ナコトト存ジテ居リマスルガ、是
トテモ御承知ノヤウニ滿洲開拓民ノ事業、
南方進出ノ方針ト云フヤウナ工合デ、他ノ
地方カラノ移住ト云フコトハ、ココ當分至
難ナ狀態ニ相成ツテ居リマス、恐ラク北海道
ト致シマシテモ同様ナ實情デアラウト思ツ
テ居リマスノデ、樺太廳ノ方針トシマシテ
ハ、大體現在居リマス農家ノ次男、三男等
ニ分家等ノ方法ヲ以テ致シマシテ、此ノ農
家戸數ヲ増シテ行キ、サウシテ耕地面積ヲ
殖ヤシテ行クト云フ計畫ノ下ニ、今日農家
ノ招致ト云フコトヲ致シテ居ルヤウナ次第
デゴザイマス、更ニ樺太ノ農業ガ地理的、
氣候的制約ニ依リマシテ容易デナイト云フ
コトモ、只今申サレタ通りデゴザイマスル
ガ、併シナガラヤリ方如何ニ依リマシテハ
サウ不利益ナ事業デモゴザイマセヌノデ、

今後農家トシテ立派ニ立ツテハ行クト確信
致シテ居リマス、此ノ農業方式如何ト云フコ
トニ付キマシテ、此處デ劃然ト確立致シ
タ斯ウ云フ農業方式ガ宜イト云フコトヲ申
上ゲルマデニ至ツテ居リマセヌガ、今マデ
ノ見透シデハ大體有畜機械化農業ト云フモ
ノガ、最モ樺太ニ適當シタ方法デハナイダ
ラウカ、斯様ニ考ヘテ居リマシテ、此ノ方
面デ酪農事業ト並行ヲ致シマシテ、樺太ノ
農業ヲ進メテ行キタイト考ヘテ居リマス、
唯先程申シマシタ樺太開發會社ノ農事經營
ニ付キマシテハ、唯今日ノ時勢デゴザイマ
スノデ、畜力ニ致シマシテモ或ハ移住農家ニ
致シマシテモ、中々入レニクイ實情デアリ
マスノデ、成ベク此ノ方面モ節約シタ農法
デ、取敢ヘズ耕地ノ擴張ヲ圖リタイト考ヘマ
シテ、機械化農業ト云フ方針デ參リマシタガ、
是トテ「トラクター」其ノ他ノ機械ノ資材ニ
非常ナル窮屈ヲ感ジテ居リマスノデ、思フ
ヤウニ參ラナイト云フコトハ甚ダ遺憾ニ存
ジテ居リマス、仰セノ如ク樺太ト致シマシ
テハ將來農民ノ増殖ト云フコトニ十分ナル力
ヲ入レテ行カナケレバ、他ノ鑛業、漁業、
林業方面ニ於キマシテ經營ガ至難ニ相成ツ
テ行クト考ヘテ居リマス

○吉田(眞)委員 是ハ中々難カシイ問題デ
アリマスノデ、一朝一夕ニ其ノ效果ヲ舉ゲル
コトハ困難ダトハ存ジテ居リマスガ、私ハ
將來樺太ト雖モ食糧ハ樺太ニ於テ自給ノ策
ヲ講ズルト云フコトデナケレバ相成ラス、
斯ウ思ハレマスノデ、農地ノ開發ニ付テハ、
他ノ者ガ行ツテハ中々容易デナイ、此ノ方
面ニ力ヲ入レテ、樺太開發會社ガオヤリニ
ナルコトガ必要デハナイカト思フノデア
リマス、又樺太ノ農業ガ現在其ノ方式ガ確

立シテ居ラスト云フコトモ、是亦洵ニ現在
ソコニ居リマス農家ニ取リマシテモ、將來
誘致シヨウトスル農業移民ニ付キマシテモ
非常ニ不安ナコトデアリマスノデ、之ヲ一
日モ早クハツキリシタ樺太農業ノ特色ヲ持
ツタ方式ヲ、一ツ樹立サレンコトヲ希望ス
ルモノデアリマス、最後ニ一言一寸御尋ネ
シテ置キタイコトハ、空襲其ノ他敵ノ攻撃
ヲ受ケタ際ニ於ケル樺太ノ食糧ハドウ云フ
コトニナリマスカ、其ノ用意竝ニ事情等ニ
付テ御差支ヘノナイ程度ノ御答辯ヲ願ヒマ
ス

○小河政府委員 只今御述べノヤウニ難カ
シイコトデハゴザイマスガ、樺太ニ於ケル
農業ノ人口ト云フモノハ最モ大事ナコトデ
アルト廳當局モ考ヘテ居リマス、サウシテ
其ノ農業方式モ此ノ前ノ拓殖計畫ヲ樹立致
シタ際ニ一應ハ立ツテ居ルノデゴザイマシ
テ、農家一戸當リ十町歩ノ耕地ヲ與ヘルト
云フコトニ相成ツテ居リマス、收支計算等
モ總テ立ツテ居リマシテ、此ノ目論見ノ下
ニ農家招致ヲ致シテ居ルノデアリマスガ、
之ニ檢討ヲ加フルノ要アリマスコトハ全ク
仰セノ通りデアリマス、是ハ來年度豫算ニ
於テ御協賛ヲ經マシタ樺太拓殖調査會ノ調
査ニ俟チマシテ、昭和十八年度中ニ尙ホ細
密ナル檢討ヲ致シテ見タイト考ヘテ居リマ
ス、ソレカラ樺太ニ於ケル非常時ノ食糧其
ノ他ノ問題デゴザイマスルガ、御承知ノヤ
ウニ樺太ガア云フ直接外國ト境ヲ接シテ
居リマシテ、一朝此ノ外國トノ間ニ國交ガ
斷絶致シマシタラバ非常ニ危險ナル狀態
ニ立至リマスシ、又宗谷ノ海峽ガ不安トナ
リマスナラバ、物資ノ輸送其ノ他ニ付テノ
不安ガゴザイマスノデ、此ノ點ニ付キマシ

テハ十分ナル警戒ノ下ニ、御承知ノ如ク昨
年ノ議會デ御協賛ヲ經マシタ樺太食糧營團
ト云フモノニ於キマシテ、是ハ内地ノ各地
方食糧營團ト異ナリマシテ、非常時用ノ食
糧品ノ分散貯藏、配給マデ致ス建前ニナツ
テ居リマシテ、此ノ營團ニ命ジマシテ、既
ニ相當長キ期間ニ互ツテ需要ヲ充スベキ食
糧ヲ貯藏致サセテ居リマスノデ、今日ノ所
デハ全ク不安ハナイト此處デ申上ゲテ差支
ヘナイト存ジテ居リマス

○吉田(貞)委員 私人質問ヲ終リマス
○古屋委員長 森谷君
○森谷委員 私人朝鮮統治ノ根本方針ニ付
テ御所見ヲ伺ヒタイト思フノデアリマスガ
深ク掘リ下ゲテ承リタイノデ、秘密會ニシ
テ載キタイト思ヒマス
○古屋委員長 ソレデハ是カラ秘密會ニ致
シマス

〔午前十一時三十三分秘密會ニ入ル〕
〔午後零時三十三分秘密會ヲ終ル〕
○古屋委員長 是カラ休憩致シマシテ、午
後ハ二時カラ續行致シマス、暫時休憩致シ
マス
午後零時三十四分休憩

午後二時十九分開議
○古屋委員長 休憩前ニ引續イテ開會致シ
マス——二田君
○二田委員 私人出版物ノ取締ニ關シマシ
テ御伺ヒ致シタイノデスガ、關係ノ政府委
員ノ方ハオイデニナリマセスカ
○古屋委員長 オ見エニナリマセスカラ、
後廻シニ致シマセウ

○圖師委員 先刻委員付託ノ法案ニ付キマ
シテ内務次官ノ大體ノ御説明ガアツタノデ
アリマスガ、要ハ内外地一元化ノ趣意ニ依
ツテ提案サレタモノト思フノデアリマスガ、
其ノ時ニ官制上ノコトハ一向觸レラレナカ
ツタノデアリマス、例ヘバ樺太乃至朝鮮ト
云フモノト行政長官トシテノ國務大臣トノ
關係、斯ウ云フコトハドウ云フ風ニ官制ヲ
御取扱ニナツテ居ルノデアルカ、其ノ邊ノ
經過ヲ承リタイト思ヒマス

○竹内(德)政府委員 内外地行政ノ一元化
ニ關シマシテハ、昨年九月政府ノ方針ガ決定
致シマシテ、十一月、所謂行政簡素化ニ基
ク各省官制ノ一齊改正ヲ致シ、拓務省廢止
大東亞省新設ノ際ニ併セテ外地關係ノ官制
ノ改正モ其ノ方針ニ依ツテ行ツタ譯デアリ
マス、其ノ一點ニ付キマシテ朝鮮、臺灣ニ
付テ先ヅ申上ゲマス、第一ニ朝鮮總督府、
臺灣總督府及ビ樺太廳ニ關スル事務ノ統理
ヲ、在來拓務大臣ノヤツテ居リマシタモノ
ヲ内務大臣ノ權限ニ致シタ譯デアリマス、
此ノ官制ニ伴ヒマシテ、朝鮮總督府官制及
ビ臺灣總督府官制ニモ改正ヲ行ヒマシテ、
朝鮮總督府ニ付テ申上ゲマス、在來總督
ハ諸般ノ政務ヲ統理シ内閣總理大臣ヲ經テ上
奏ヲ爲シ及裁可ヲ受ク——ト云フノゴザイ
マシタノヲ「内務大臣ニ由リ」此ノ辭句ヲ加ヘ
マシテ、「内務大臣ニ由リ内閣總理大臣ヲ經テ
上奏ヲ爲シ及裁可ヲ受ク」ト云フコトニ致シ
マシタ、ソレニ引續キマシテ「總督ハ別ニ定
ムル所ニ依リ内閣總理大臣及各省大臣ノ監
督ヲ承ク」ト云フ字句ヲ加ヘタノデアリマス、
此ノ監督ヲ承クト云フ官制ニ照應致シマシ
テ、別途勅令ヲ以チマシテ「朝鮮總督及臺灣
總督ノ監督等ニ關スル件」ト云フ勅令ガ十七
年十一月一日附ヲ以テ公布セラレタ譯デア

リマス、此ノ勅令ニ付テ極ク概略ヲ申上ゲ
マス、ト「内務大臣ハ朝鮮總督ニ對シ朝鮮總
督府ニ關スル事務ノ統理上必要ナル指示ヲ
爲スコトヲ得」、臺灣ニ付テモ併セテ申上ゲ
マス、ト「内務大臣ハ臺灣總督ニ對シ臺灣總
督府ニ關スル事務ノ統理ノ爲監督上必要ナル
指示ヲ爲スコトヲ得」其ノ第二條ト致シマ
シテ、内閣總理大臣及ビ各省大臣ハ各、其ノ
所管事務ノ中極メテ重要ナルモノニ付キマ
シテ朝鮮總督及ビ臺灣總督ヲ監督スルト云
フコトニ致シテアリマシテ、其ノ監督上必
要ナル指示ヲ朝鮮、臺灣兩總督ニ對シテナ
スコトガ出來ル、斯ウ云フ勅令ガ出ツタ譯デ
アリマス、是ガ所謂内外地一元化ノ具體的
現ハレトシテ出テ居ル譯デゴザイマス、其
ノ他ノ點ニ於キマシテ、朝鮮、臺灣兩總督
ガ朝鮮、臺灣ニ於テ所謂綜合的ニ諸般ノ政
務ヲ統理スルト云フ建前ハ變更ヲ加ヘテゴ
ザイマセス、樺太ハ是ト異ナリマシテ、内
地ニ編入ス、所謂外地の性格ヲ離レマシテ、
内地ノ府縣乃至ハ北海道ニ準ズル建前ニス
ルト云フコトニ方針ヲ定メタノデアリマス、
今般御審議ヲ願ツテ居リマス明治四十年法
律第二十五號ノ廢止ヲ致シマスト共ニ、官
制的ニ在來ノ官制ヲ改メマシテ、是ハ目下
確定スルマデニ至ツテ居リマセスカ、大體
今作ツテ居ル案ニ於キマシテハ、北海道廳
ノ官制ト類似シタヤウナ官制ニスル考ヘデ
アリマス、唯樺太ノ特殊事情ニ鑑ミマシテ、
樺太長官ノ權限ハ府縣知事乃至ハ北海道長
官ヨリモ相當廣クシテゴザイマス、例ヘテ
申シマス、大藏省ノヤツテ居リマス財務
行政、或ハ商工省ノ鑛山監督ノ事務、農林
省ノ營林ノ事務ト云フヤウナモノニ付テ、
内地ニ於テハソレノ各省直轄ノ財務局、

鎮山監督局或ハ營林局ガ設ケラレテ居リマス
ガ、樺太ニハ是等ノモノヲ設ケマセズ、樺
太長官ガ樺太廳ノ組織ノ中ニ是等ノ事項ヲ
扱フ部局ヲ置キマシテ、指揮監督權ハソレ
ゾレノ各省大臣ニ移リマスガ、ソレノ實施
ニ當ル官廳トシテハ、樺太廳ヲシテ之ニ當
ラシメルト云フ建前ニ變ヘテ居リマス、ソ
レハ大體ニ於テ事務ノ範圍デアリマシテ、
建前ハ内地ノ府縣ニ於ケルト同ジク各省大
臣ガ各、其ノ使命ニ應ジマシテ、全體ノ行
政事務ノ管理ヲシ、其ノ管理權ニ基イテ樺
太長官ヲ指揮監督シテ參ル、斯様ニ變ヘル
譯デアリマス、此ノ官制ノ方ハ目下案ヲ作
成中デゴザイマスノデ、四月一日マデニ此
ノ官制ノ公布ヲ致シマシテ、四月一日ヨリ
此ノ内地編入ノ措置ガ行ハレルト云フ順序
ニナル、斯様ニ御諒承願ヒマス

○圖師委員 樺太ノコトハ分リマシタガ、
問題ヲ朝鮮、臺灣ニ取リマス、朝鮮總督
及ビ臺灣總督ハ大體廣ク統理スルト云フコ
トニナツテ居ルト致シマス、中央政府ニ
於ケル一大臣ノ監督權ノ下ニ立ツコトニナ
ラナイト云フヤウニ解シテ宜シイデス
カ

○竹内(德)政府委員 先程申シマシタ監督
ニ關スル勅令ニ依リマシテ、各省掌理ノ中
其ノ一部分デアリマス、例ヘテ申シマス、
大藏省關係ニ付キマシテ、貨幣、銀行及ビ
關稅ニ關スル事務ニ付テハ、大藏大臣ガ總督
ヲ監督スル、唯此ノ監督ト云フ言葉ハ、所謂
俗ニ言フ監督ト云フ言葉ノ如ク指揮權ヲ伴
フモノデアリマセズ、監督權ノ發動ノ形式
トシテハ指示ト云フ形ヲ定メラレテ居リマ
スルダケデ、一般ノ常識デ云フ監督ト云フ
コトヨリ非常ニ制限サレテ居リマス、其ノ

關係上、上級下級ノ關係ニ立ツモノデハナ
イノデアリマシテ、大體今御話ノ如ク御了
解下スツテ差支ヘナカラウト思ヒマス

○圖師委員 是ハ國策ト申シマス、國政
ノソレコソ基本ニ關スルモノデ、事務的ノ
範圍ヲ脫シマスルガ、單ニ上級下級ノ監督
ニアラズシテ、事務的ニ指示スル權能ヨリ
ナイ、併シナガラ之ヲ監督ト云フ言葉ニ於
テ勅令ニハ現ハシテ居ル、サウシマス、從
來ノ通念タル監督ト云フコト、今回ノ指
示ニ付テノミ、早ク言ヘバ事務的ニノミノ
一種ノ統理ト云ヒマス、管理ト云ヒマス
カ、監督ト仰セラレマシタガ、其ノ監督ト
云フコトノ法律用語トシテノ言葉ノ範圍ガ
非常ニ混亂スルヤウニ思ヒマス、サウ云フ
コトデハ一般ノ社會ニ對シテ何トナク行政
組織ノ機構ニ於テ誤解ヲ招キ易イヤウナ感
ジガ致スノデアリマスガ、政府ハサウ云フ
點ハ差支ヘナイト御考ヘデアリマス

○竹内(德)政府委員 在來ノ官制其ノ他ニ
於ケル用語ニ致シマシテモ、指揮權ヲ伴フ
監督ト云フモノハ非常ニ強イモノデゴザイ
マシテ、隨テ指揮權ヲ伴ヒマスルガ故ニ、
行爲ノ取消權トカ、或ハ代行權トカ、斯ウ云
フモノガ必然的ニ伴ツテ參ルノデアリマ
スガ、左様な場合ニ於キマシテハ指揮監督
ト云フ文字ヲ使ツテ居リマス、例ヘバ現在
ノ官制ニ於キマシテモ、樺太長官ニ對シマ
シテハ內務大臣ハ指揮監督權ヲ持ツテ居リ
マス、臺灣總督ニ對シテハ、唯監督ト云フ
文字ヲ使ツテ居リマス、ソレカラ朝鮮總督ニ
對シマシテハ在來監督ト云フ文字ハ何處ニ
モ現ハレテ居ラナカッタノデアリマスガ、
今回ノ勅令ニ依リマシテ新シク内外地ノ行
政ノ一元化ヲ圖ルコトガ現在ノ時局ニ於テ

最モ重要ナリト考ヘラレル事項ニ付テ監督
ト云フコトヲ行ハレルヤウニナリマシテ、
指揮權ヲ伴フモノデナイト云フコトハ、指
揮權ヲ伴フ場合ニハ常ニ指揮監督ト云フ文
字ヲ用ヒテ居ルコトニ依リマシテ明カニサ
レテ居ルモノト考ヘテ居リマス

○圖師委員 サウシマス、事務的ノコト
ハソレダケノ御説明ノ程度デ結果ガヨク參
リマセウガ、吾々ノ解スル一元化ト云フコ
トハ、單ニ事務上ノ指示シカ出來ナイ、指
示ト云フ文字ニ依ツテノミ現ハサレル、觀
念ニシマシテモ概念ニシマシテモ、サウ云
フ意味ニ依ツテノミ一元化ハ出來ルノデア
ル、併シナガラ徹底的ニ考ヘルナラバ、所
謂政府委員ノ仰セラレル指揮監督ト云フ徹
底的ノ文字デナケレバ強度ナル一元化ハ出
來ナイモノト吾々ハ考ヘテ居リマスガ、サ
ウ云フ點ニ付テ何カ根本ノモウ少シ立入ッ
タ御意見ハナイノデセウカ

○竹内(德)政府委員 其ノ點ニ付キマシテ
ハ、在來ノ朝鮮、臺灣統治ノ沿革、又現狀、是
等ニ付キマシテ篤ト考究致シマシタガ、現
狀ニ於テ朝鮮、臺灣ハ樺太トハ異リマシテ、
總督ノ綜合政治ト云フ形態ヲ以テ統治ヲ行
ツテ參リマスルコトガ現在ノ狀況ニ適シタ
ルモノデアリ、其ノ關係ニ於キマシテ總督
ノ地位ト云フモノヲ十分尊重シテ參ル、サ
ウ云フ建前ヲ一方ニ於テ執リ、一方ニ於キ
マシテハ、現在ノ戰爭遂行上諸般ノ關係ニ
於キマシテ、内外地ノ一元の施策ヲ要スル
事項ニ付キマシテ、必要ナル範圍ニ於テハ
各主務大臣ノ施策ト、朝鮮、臺灣ニ於ケル
施策トノ完整ナル一體ヲ圖ル必要ガアル、
此ノ兩者カラ併セ考ヘマシテ、先程來説明
申上ゲタ形ニ依ル一元化ヲ行フコトガ現在

ノ事情ニ最モ適シタルモノデアアル、斯ウ云
フ所カラ斯様ニ致シタ次第デアリマス

○圖師委員 先刻森谷君カラ御質問ガアツ
タノデアリマスガ、今日ノ社會ノ大勢カラ
考ヘ、殊ニ東亞共榮圈確立ノ以後ニ於テノ
日本ト朝鮮、臺灣トノ關係ヲ見マスルト、
私共ノ考ヘデハ、モウ一步進シダ一元
化、即チ指揮監督權ノ伴フ統制アル國策ノ
一元化デナケレバ、總督ノ權限ニ於テ獨立
シタル解釋ノ下ニ行フ根本政治ノ理念ト云
フモノト、中央ニ於ケルモノトガ一寸ソダ
ハナイヤウナ間隙ヲソコニ生ズルヤウナ虞
ヲ抱クノデアリマスガ、併シハ根本論デ
アツテ、要スルニ意見ノ相違ニナリマセウ
ガ、私共ノ考ヘル所ト此ノ内外地一元化ノ
點ニ付テ相當ノ開キガアルト云フコトヲ遺
憾ニ感ジマスノデ、此ノ點ハ意見トシテ申
述ベテ置キマス、質問ハ是デ終リマス

○古屋委員 二田君ニ一寸申上ゲマス
ガ、警保局長等ハ今戰時刑事ノ委員會ニ出
席シテ居ラレルサウデアリマスカラ、一寸
コチラヘ來ルコトハ出來スヤウデアリマス
ノデ、此ノ次ニ御質問ナサツタラドウデス
カ

○二田委員 宜シウゴザイマス
○古屋委員 ソレデハサウ云フコトニ致
シマス、他ニ御質疑ハアリセスマカ——御
質疑ハナイモノト認メマス、大體ニ於テ質
疑ハ終了致シマシタ、本日ハ是ニテ散會致
シマス、次會ハ公報ニ依ツテ御知ラセ致シ
マス

午後二時四十分散會

昭和十八年三月六日印刷

昭和十八年三月七日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局